

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) アズマゼミナール
日本大学	商学部	東ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ニホンダイガクショウガク アズマゼミナールディーチーム	フリガナ) ツユキ シホ	4人	無	
日本大学商学部東ゼミナールDチーム	露木 詩穂			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

調査時に使用したアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

世代間交流促進のためのボランティアマッチングシステム「^{たま}禪」

※必ず <企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

地域住民(高齢者)と学生に普段の授業と異なった、様々な知識や経験を提供したい中学校のためのボランティアマッチングシステムの提案。世代間での相互コミュニケーションの促進をすることで高齢者に生きがいを感じてもらうとともに、学生に様々な経験の機会を与える。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

高齢者の背景として、さまざまなつながりの希薄化や会話頻度が減少することが挙げられ、生きがいの喪失や生活の質の低下、不健康の原因となる。高齢者の8割程度は生きがいを感じているが、そうでは無い人も一定数いる。そして、生きがいを感じていない人は増加傾向にある。また、学生の背景として、親の収入格差や地域差による子供の経験格差が存在する。また、地域によって習い事の種類の多かたたり少なかつたりすることもあり、地域差による経験格差も存在する。全ての学生に平等に、たくさんの経験をさせる必要性があると思われる。

3. 研究テーマの課題

学生は価値観の異なる様々な年代の相手と接することで、地域差による経験格差を小さくし、普段接することがないような世代の人と関わらせたい。そこで、全ての学生に平等に、たくさんの経験をさせる必要があるのではないか。また、高齢者は世代の異なる人と関わることで会話する機会を増やし、新たな繋がりを構築できる場を作りたい。学校教育に関わって、自分の知識や経験を活かせる機会を作ることなど、若い世代と交流する機会を得ることが出来ることにより、新たな繋がりの構築が期待出来る。心理的や身体的健康を高める効果があるため、高齢者のボランティア活動を推進させたい。そして、高齢者がボランティア活動することで「生きがい作り」をさせたい。現存の学校ボランティアとの相違点はというと、サイトから登録できるので気軽に始めやすいという点があげられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

高齢者の他社との交流が希薄になってきている点、学生の経験格差問題、これらの問題を解決するためにボランティアマッチングシステムを利用する。これは地域住民と学校に利用してもらうシステムである。利用手順としてまず、システムに地域住民が自らの名前、生年月日などの情報、また自分はボランティア活動を通して子供達のために何をしたいかというのを明確に記した上で情報を登録する。登録の際、サイトの悪用などを防ぐために、アップロードされた身分証明画像を載せることを義務づける。登録した後、自らの情報を見た学校からのオファーがあればそこでボランティア活動をしてもらう。またある特定の人材を欲している学校があれば、そちらの方にオファーしてもらう形になる。また、学校側には地域住民が登録しやすくするためにボランティア活動の明確な内容、また頼みたい仕事内容をサイトに載せてもらう。地域住民側と学校側が双方で合意すれば、アプローチした相手から返信が来しだい、お互いに連絡を取り、地域住民側の人たちには活動してもらう。このように学校が交流の場と機会をあたえることで世代間交流を実現することができる。またこれを通して学生に対しては、様々な経験の場所を提供することができる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

授業システム構築のためのリサーチとして、現役学生(大学生)55人を対象に現状調査と提案に対するアンケートを実施した。主な内容としては(1)大学生の暮らしの中で高齢者と関わる機会があるか(2)高齢者と関わることで出来る場所というところどこが想像できるか(3)高齢者と関係を持っていきたいと

思っているのか(4)関係を持つことで何か学ぶことができるのか。アンケートの結果、学生が高齢者と関わる機会はおよそ半分の 52%という結果になった。また高齢者と関わりを持ちたいと思っている大学生は 63.6%と多かった。しかし、高齢者と関わることで学べるがあると回答したのは 40%も少ない結果になった。また私たちが行った提案に対する調査の結果、学校で高齢者のほうが教育ボランティアとして、学習の手助けをしたり、授業では学べない知識や遊びなどを教えてくれる制度があれば利用したいですか？というアンケートに関してはどちらともいえないが一番多かった。他の質問でも一番ではないがどちらともいえないという回答の割合は多かった。またアンケートの結果をふまえると、現状高齢者と関わりがある学生の数は少ないが、関わりたい、関わって学べるがあると答えた学生は比較多いということがわかる。世代間交流の事例として、異世代間ホームシェアを参考にした。この事例ではお互いにそれぞれのルールを守り、都内の高齢者が大学生に場所を提供し、地方から来た大学生の経済的負担を減らす。また地方から都内の大学に通う学生は、高齢者宅に住まわせてもらい、高齢者と良好な関係を持ち元気付けるというように、異世代で共に過ごすことで互いに経験を共有しあい地域社会の充実につなげていくことを目的としている。

6. 結果や今後の取り組み

本提案が学生と高齢者の相互理解のきっかけとなるようなシステムにしたいと考えている。また、このシステムを使いたいと思わせるには、高齢者にも、学生にも、世代間交流のメリットをどのようにアピールするかを考えて行く必要があると考えている。そして、地域住民が学生にボランティアとして接することが学校側の負担を軽減させられるようなシステムにしたい。

7. 参考文献

内閣府「平成 25 年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果（概要版）」

<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/gaiyo/index.htm> (2019.08.12 閲覧)

公益財団法人長寿科学振興財団「高齢者の生きがいとは」

<https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/tyojyu-shakai/ikigai.html> (2019.08.12 閲覧)

あなぶきの介護「高齢者の一人暮らしでは「生きがい」の低下に要注意！ どうやって生きがいを見つけたい？」

<https://www.a-living.jp/contents/780/> (2019.08.12 閲覧)

こどもまなび☆ラボ「コミュニケーション能力は低くて当然の時代！？ そんないま親が子にしてあげるべき 6 つのこと」

<https://kodomomanabi-labo.net/communication-home> (2019.08.12 閲覧)

セキスイハイム注文住宅「会話促進により生活改善の効果を確認—高齢者個人宅におけるコミュニケーションロボットの検証実験結果—」

<https://www.sekisuiheim.com/info/press/20180320.html> (2019.08.22 閲覧)

内閣府「平成 26 年版高齢社会白書（概要版）」

<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/gaiyou/index.html> (2019.08.

22 閲覧)

キャリアコネニュース「子どもの習い事「経験格差」が拡大 月々の予算は二極化、関東は高額かける層が厚い傾向」

<https://news.careerconnection.jp/?p=48901> (2019.08.25 閲覧)

高崎経済大学 加納広樹 谷川智紀 松岡洸太郎「貧困による子どもの経験格差」

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/k-gakkai/5.%20kanou%20matuoka%20tanigawa.pdf#search='%E7%B5%8C%E9%A8%93%E6%A0%BC%E5%B7%AE+%E5%AD%90%E4%BE%9B'> (2019.08.25 閲覧)

value press 「【2018 年習い事調査】二極化する子供の習い事予算 ～習い事にみる子供の「体験格差」の拡大～」

<https://www.value-press.com/pressrelease/195832> (2019.08.25 閲覧)

日本公衆雑誌「ボランティア活動が高齢者の心身の健康に及ぼす影響 地域保健福祉における高齢者ボランティアの意義」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/52/4/52_293/_article/-char/ja/ (2019.08.26 閲覧)

YAHOO！ニュース「高齢者と若者をつなぐ「ホームシェア」という新しい住まい方」<https://news.yahoo.co.jp/byline/torusaito/20160928-00062609/> (2019. 09.04 閲覧)

マーケティング「シニアのスマホ売上が約 8 割も増加！ SNS で若者と高齢者が交流する仕組みを生み出した、素敵な取り組み」<https://markezine.jp/article/detail/22653> (2019.09.13 閲覧)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください